

生駒市立幼稚園及び小・中学校のあり方に関する基本的な考え方 市民説明会

第2部（質疑応答部分） 議事要旨

日時：令和2年11月21日（土） 午後1時30分～午後3時50分

場所：生駒市コミュニティセンター 文化ホール

参加人数：101人

幼稚園の基本的な考え方についての質問

<質問>

東生駒駅の近辺によく買い物に行く。自動車が通らない道があるが、児童14人に対して保育士2人で対応していた。ふらふらと広がって歩いている様子を見た。その道路には横に溝があって通行している様子を見ていると非常に危ない。

安全性がないところで保育をしている。このような形での保育であると保護者が心配すると思う。なばた幼稚園が空いているのであれば、そちらに保育園を持っていくことはできないのか。

幼稚園から保育園に形態を変えたところでは、園児数が30人から100人を超える状況になった。なばた幼稚園は非常に良い環境である。3年ぐらい前に園舎を改修もしている。民間保育園を受け入れるなど、なばた幼稚園で保育園やこども園を実施してはどうか。

【回答】

なばた幼稚園での民間も含めた保育園やこども園化については、一つの検討材料として、保護者・地域の皆さまと協議しながら考えていきたい。

<質問>

俵口幼稚園は緑豊かで素晴らしい環境で、良い保育をされている。にもかかわらず、基本的な考え方にある表を見ても、俵口が突出しているわけではなく、再編の対象には至っていないと考える。基本的な考え方についても、前半部分は公立幼稚園のことを非常によく考えている形になっているのに、後半部分では急に再編について示されている。

また、地域の保護者は大丈夫でしょうと楽観的で、あまり知らない状況である。市民説明会も時間も機会も少なく、意見を聴く機会を再度設けていただきたい。

このような形で進められていくことが心配である。幼児期は大切に、幼稚園も大切である。幼稚園も小学校と同じで、少人数の方が良い。少人数学級を実施すれば、複数学級が実現できる。俵口幼稚園の園舎も耐震性があるので、是非とも存続を考えていただきたい。未就園児の保護者も含めた説明会、意見交換会をしていただきたいと思う。

【回答】

地域・保護者の意見を伺う機会を協議会の中で設けていきたいと考えている。今回は、教育委員会で策定した基本的な考え方についてご説明する機会を設けさせていただいた。

12月は関係団体に対する意見交換会、来年1月には地域協議会でご意見を伺っていききたいと考えている。少人数にもメリットもあると理解しているが、小規模の中でどのように集団活動を実施していくのかといった難しい課題もある。既に保幼小接続事業やクラスや学年をまたがった教育を実施させていただいているところである。今後ご意見を伺いながら市教育委員会も一緒に考えていきたいと考えている。

<質問>

3ページの幼稚園の役割を記述しているところがあるが、非常に大切な役割を果たしてきた公立幼稚園をなぜ今廃園なのか理由を明確に教えていただきたい。近年、発達に困難を抱えた子どもたちも確実に増えてきている。家庭に加えて、地域に対する子育て支援における幼稚園・保育園が果たす役割は大きい。もっと支援を必要としている家庭に対して、公立幼稚園の役割はますます大きくなってきている。

是非とも存続を考えてもらいたい。

また、100人以上の大規模園についても課題はあると思うが、大規模園については、再編は検討しないのか。

【回答】

幼稚園はご意見のとおり、地域の皆さまに支えられてきたと認識している。

市としても、3歳児保育や保幼小連携事業もいち早く実施してきた。小規模になってしまいう園でしっかりと集団活動ができるのか考えていく必要がある。併せて地域の中で保育ニーズが高まっているという現実もある。幼稚園機能と保育園機能を併せ持ったこと

も園化ではどうかということで、答申を検討委員会からいただいた。今後、保護者・地域の皆さまとの協議の中で検討していきたい。また、現在、大規模園となる園は無い状況である。小規模園になると幼稚園教諭の人数がクラス数に合わせて減り、行事の際に困難が生じている。その解決も考えていかないといけない。大規模で、定員を超える園は現在無く、今後少子化と保育ニーズの変化が進む中で、大規模園が生じる可能性は低いと考えている。

<質問>

跡地利活用について、なばた幼稚園の側に住んでいるが、一旦なばた幼稚園を廃園して、地域と相談した上で跡地利用を総合的に考えるとある。こども園も検討するとあるが、一旦廃園して、市の責任を放棄して民間のこども園を作るのかというふうに考えてしまう。

きちっと市の責任で最後まで何からの形で存続してもらいたい。近隣で開発が行われる話もある。若い世代が入ってくる可能性がある。なばた幼稚園も子供が増える可能性があることから、保育ニーズも踏まえて市でこども園化していただきたい。

【回答】

現在のところ、跡地利用については何も考えていない。地域の中の幼稚園である。むやみに幼稚園や保育園を建てるということは、子ども・子育て支援事業計画に基づいて動いていかないといけないことから、簡単にできない。大規模開発についても本当に進展していくのか、見極めて検討していきたいと考えている。

<質問>

6ページの具体的な方策を実施する際に留意することで、通園時の安全に関することとあるが、生駒台幼稚園と俵口幼稚園が統合される場合、生駒台幼稚園の周辺交通状況が良くない。車で送迎される保護者もいる。近くには学童もある。幼稚園の送迎の時間も現在限られている。また、小学校の校門が近くにある。もう少し規模が大きくなると非常に危険であると考えている。

俵口幼稚園と生駒台幼稚園の統合について、安全確保について非常に危惧しているのでしっかりと検討いただきたい。

【回答】

保育園・こども園の建設に当たっては、安全確保が最重要であると考えている。
現在も運営できているのは、地域の皆さまが幼稚園・小学校の安全を考えていただいている結果だと思っている。市としても、警察等の関係機関と連携をとりながら、しっかりと検討してきたいと考えている。

<質問>

4ページの認定こども園化について、合併した上でこども園化するとなるとそのままの設備で移動するのか。リニューアルした状態で移動することになるのか。民間の保育園・こども園と比べると市立の保育園とは、設備に差がある。教育面にも差があると感じている。市の保育園は全体的に古くなってきている。合併する場合、施設が良くなる、先生の人数も多くなるといったことも市は考えているのか。

【回答】

どうしても現状として、民間保育園と比較すると、施設が古いという差が出ている。認定こども園にするのであれば、給食室や0歳児を受け入れる部屋が必要になるなど、何らかの手を加えていく必要が出てくるのは事実である。こども園の形態によっても色々な手法があることから、いただいた意見をしっかりと考えて、市のファシリティマネジメント推進計画との整合性を踏まえながら、進めていきたいと考えている。

<質問>

進め方について、12月の関係団体との意見交換会のイメージを教えてください。

【回答】

意見交換会については、対象となる園区すべてで行う予定である。
意見交換会は、すべての方が参加できる形になるのかは現在検討中である。新型コロナウイルスの感染状況もあることから、実施方法も含めて検討していきたいと考えている。

<質問>

来年1月から地域協議会で協議を行なっていくということだが、どれぐらいのスケジュール感を持っているのか。

【回答】

地域協議会で多くの意見をいただけると考えている。新型コロナウイルスの件もあることから、期限については協議会で話をしていきながら決めてきたいと考えている。ある程度の期限は設けたいと考えているが、協議会の中で期限等についても考えていただきたいと考えている。

小・中学校の基本的な考え方について

<意見>

南第二小の再編の話が出て、もう1年になる。当時の校長から統廃合に関する話を受けて以来、保護者は心配している。

しかし、南二小の児童はみんな頑張って、学校に通っている。妹や弟もいるし、先生方にも頑張ってもらっている。

また、検討委員会でのパブリックコメントについて、今回の説明会において、なぜ何の説明もないのか。保護者は本当に一生懸命である。

ある保護者は雨の中、通学に関して動画を撮っていたが、危ないから止めた。何のためにするのか、子どものためにしている。このような保護者や市民の気持ちを、教育委員会で受け止めていただきたい。南小・南中に校舎の老朽化の問題があるなら、早急にするべきである。二小を残していくためにみんなで考えた方が良く考えている。

要望として伝えさせていただく。

<質問>

あり方検討委員会で決めて、尊重しているということを強調されているが、検討委員会も事務局主導ではなかったのかと思っている。

再編の長期的なスケジュール感を教えていただきたい。

在学生の卒業も考慮すると、7年間で想定しているのか。

【回答】

地域協議会の期限というものは、協議会で決めていくことを考えている。

決定事項がいつになるかということについては、6年以上はかかるということで想定している。

今の在校生が卒業できる形にはしていきたいとは考えている。

<質問>

俵口幼稚園が統合すると、生駒台幼稚園に行くことになるが、将来的に俵口小学校をなくす予定ではないのか。俵口幼稚園と生駒台幼稚園が統合すると、小学校に進学する際に子どもたちが離れ離れになってしまう。子どもたちの気持ちは考えているのか。

【回答】

俵口小学校については、将来的にも一定規模を維持できるということから、現時点では再編等については考えていない。もちろん、将来的に児童数が小規模になるということになれば、その際に改めて検討してかなければならないとは思う。

幼稚園については、こども園化ということも見据えて、通園バスを利用しながらということも検討していきたい。

友達になったのに離れ離れになることについても、南こども園では、南小学校・南第二小学校に進学する現状もある。離れ離れになって、子どもたちの辛い気持ちにつながるとは考えていない。

<質問>

推計について、令和22年度の児童生徒数の減少率が28%になっている。市の公共施設マネジメント推進計画での年齢別人口とは差異がある。その理由を教えてください。

また、学級数を見ると、小学校の望ましい学校規模を24学級までを上限としている。学校教育法施行規則では、小学校は12～18学級を標準としている。19学級以上が大規模では無いのか。19学級以上を大規模とすると、現在6校ある。基本的な考え方では、小規模校のことばかりが述べられているが、大規模校を放置するのはいかがか。通学区域の見直しも含めて考えていただくのはどうか。

【回答】

推計については、公共施設マネジメント推進計画は市の人口ビジョンの推計を引用している。基本的な考え方については、令和7年度までは住民基本台帳の就学前の登録者数を積み上げて算出させていただき、それ以降については、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計の減少率を乗じて算出させていただいている。

大規模校については、文部科学省が大規模校として定めているのが25学級以上である。検討委員会の答申も踏まえ、文部科学省の基準を望ましい規模の上限とした。

<質問>

南第二小の再編について、国の方針ということを強調されている。新型コロナウイルスもあって少人数が見直されている状況もある。南第二小を国も驚くような学校にしていこうようにしていきたいと考えている。少人数学級や小規模校を生かした形での教育を考えていただきたい。保護者としても、汗をかく気持ちがあるので、お伝えしたい。

また、保護者・地域の合意が得られた時点で、在籍する児童について、卒業する時期等を柔軟に対応するとあるが、将来、南第二小に入る予定の子どもたちに対しての対応はどのように考えているのか。南第二小に上がる保護者に対して、意見を聴く機会はあるのか。確認したい。

【回答】

就学前のお子様をお持ちの保護者もご不安に思われている方もいらっしゃることから、就学前の保護者に対しても、今後の協議会の中で、ご意見を伺う場を設けたいと考えている。

<質問>

1ページ目の記述で、小規模校が問題であるという記述がいい加減ではないかと考えている。小規模校のデメリットとされていることについて、廃校とされるほどのデメリットなのか。

保護者や児童等に対するアンケートがあれば示していただきたい、これから実施する予定なのであれば、ぜひ意見を聞いていただきたい。

また、小中一貫教育のことが多く書かれ、学校規模と併記されているが、つながりが読めない。南小と南中の小中一貫校を検討されているのか。現状として、南中学校区で地域協議会を作ることは考えていないのか。

【回答】

現在、小規模校が存在していることは確かであるが、小規模校をどのようにしていけばいいのかということ、今後保護者や地域との協議会の中で協議をしていきたいと考えている。小中一貫教育、小中一貫校についても一つの手法として、協議会の中で検討していければと考えている。ただし、現時点では南中学校区に地域協議会を設置する予定はない。

<質問>

公共施設マネジメント推進計画と基本的な考え方についての推計の違いに関連して、どうしてこんなに学校間の差が出るのか。

【回答】

先ほどご説明させていただいたとおり、国の人口ビジョンを踏まえて策定された市の人口ビジョンと令和7年度までは住民基本台帳の就学前の登録者数を算定して推計し、令和7年度以降は、令和7年度の児童生徒数に国立社会保障・人口問題研究所の年齢別人口の減少率を乗じて算出したものである。

令和7年度の児童生徒数の差がそのまま令和22年度の児童生徒数の差になっているものである。

<意見>

南第二小の小規模化について、南第二小の存続を検討して、撤回いただきたい。

文科省の手引きにもあるように、丁寧に保護者・地域の意見を聴いて進めることが示されている。学校がなくなると地域は衰退する。地域コミュニティを大切にする市の方針に反する。少人数学級が進めば、二小の学級規模が増加し、望ましい規模になるのでは無いか。教育委員会には前向きな姿勢を持っていただきたいと思う。

是非とも白紙撤回いただきたい。より良い生駒市をつくるという視点で進めていただきたい。

<質問>

子どもを大事にしない市に未来はないと思う。財源というものは二の次に考えていただきたい。小学校の廃校でどれだけ財政が潤うのか教えていただきたい。

【回答】

5年間で10億円の経常経費の削減ということもある中、人件費を除く運営経費で約1千万円ということをご説明させていただいている。

より良い教育環境を作っていくということが教育委員会事務局職員の使命である。

保護者や地域の皆さまから、様々なご意見を伺った上で、今後新たなスタートを切っていくものと考えている。

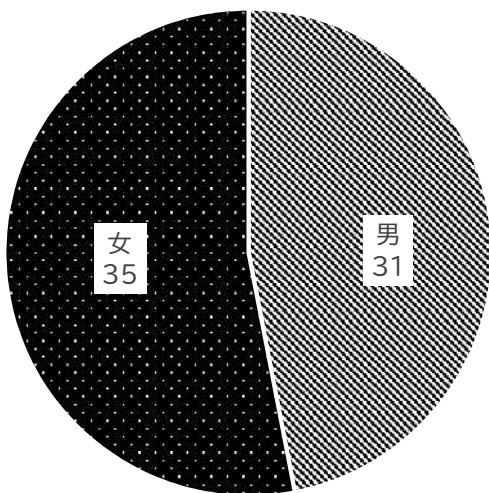
<意見>

通学区域については、地域などの合意が得られて初めて実施できるものであると考えている。検討委員会では通学区域の見直しは行わないということを前提に審議されている。ここも大きな議論が必要な点である。教育水準の平準化という大きな問題もある。検討委員会だけの議論では少なすぎると考えている。協議会の中で、再度フラットな形での議論をお願いしたい。

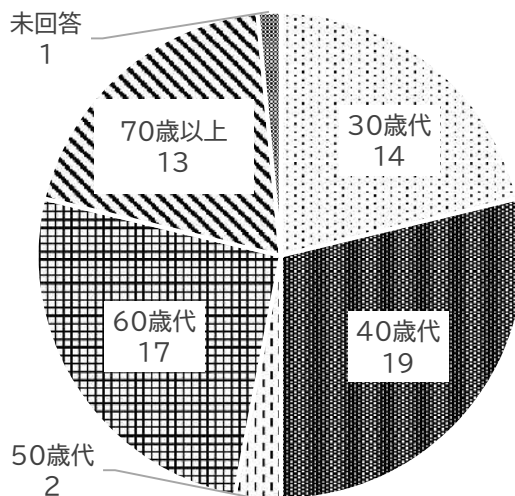
生駒市立幼稚園及び小・中学校のあり方に関する基本的な考え方 市民説明会 アンケート結果

1 あなたご自身のことについて、お伺いします。

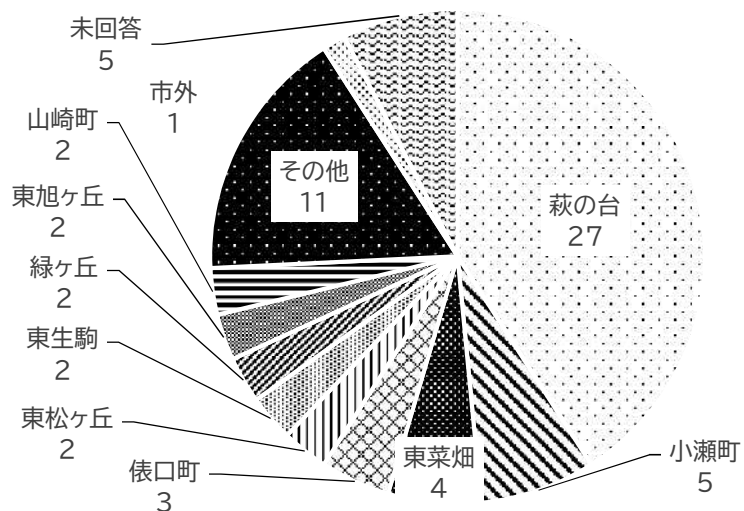
性別



年齢



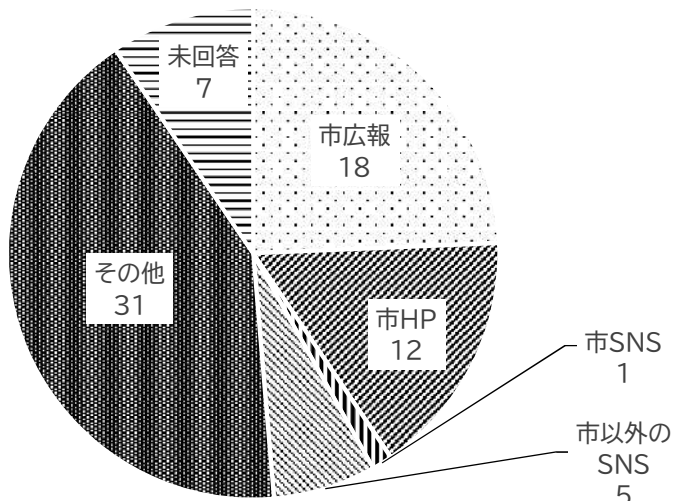
住所地



その他の内訳

新生駒台	1
萩原町	1
壱分町	1
東山町	1
青山台	1
中菜畑	1
美鹿の台	1
西白庭台	1
あすか野	1
仲之町	1
喜里が丘	1

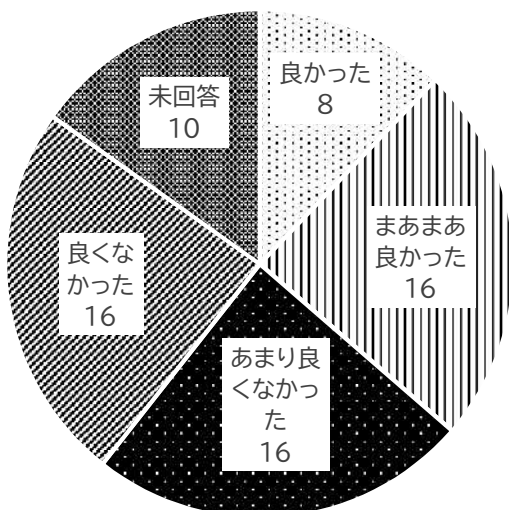
2 今回の説明会をどのようにしてお知りになりましたか。(複数回答可)



その他の内容(一部)

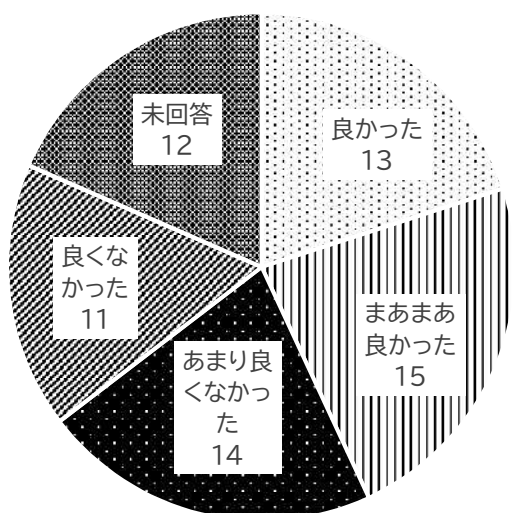
口コミ
近所の方から
学校からの手紙
市議会
市教育委員会会議

3 基本的な考え方についての説明会はどうでしたか。



- ・とても分かりやすかった。丁寧にゆっくり説明いただいた。
- ・一般的なことばかりであった。親が常に考えているようなことばかりだった。
- ・国の基準4km以内をそのまま本市に適用するのは、少し乱暴な気がする。適切な交通手段も示されていない。安全面最優先でお願いしたい。
- ・資料を読んだだけと感じた。
- ・内容が飛び飛びで説明についていくのに大変だった。
- ・「基本的な考え方」=こういう方向で廃園・統合していくつもりであるという冊子に思われた。合併以外の方法は検討したのか。
- ・ポイントをおさえて説明されていた。
- ・生駒南第二小学校の保護者、地域宛に文書が市長、教育長との連名で発出されていたが、連名であるなら、連名者が説明すべきでないか。教育委員会の出席も無かった。
- ・説明会開催の案内の仕方について、地域に回覧すべきではないか。
- ・時間が短かった。
- ・ざっくりとしたもっと丁寧な説明が欲しかった。
- ・統廃合ありきで話が進んでいる。望ましいというのが市にとって望ましいことになっている。子どもが不在になっている。幼稚園の話で大規模なところで課題はないと言っていたが、実態を知らないのではないか。幼児の年齢で大規模になっていいなどありえない。
- ・望ましい規模、望ましい配置の根拠がよく分からなかった。なばた、俵口に対して、定員に対して入園児が少ないという問題だけを取り上げ、定員が120人以上の園に詰め込まれていることに対し、望ましい規模と言えるのか。市として、問題意識はあるのか、ないのか、明確にされなかった。
- ・市として、本当に子どもたちを豊かに育てていくという方向性が見えなかったのは残念である。
- ・小規模校を存続させる方向で是非考えてもらいたい。
- ・教育委員会当事者の話を聞いて良かった。
- ・幼小中一緒での説明は時間が少ない。地域懇談会の予定がはっきりしていないので、早急に計画、周知徹底願いたい。
- ・内容は良かったが、もっと若い方が多く参加してほしい。子育て世代の意見を聴くべき。
- ・学校規模・配置について、国の基準をそのまま本市にあてはめることが適正だとは考えにくい。「検討した結果」とあるが、何をどう検討したのか明確ではなく、説得力に欠ける。メリット・デメリットも漠然としており、特にデメリットは同じような内容をひねり出している感がある。
- ・国の指針、数字に基づく話ばかりだった。
- ・廃校しないための検討、施策の説明が不十分。
- ・スケジュール、予算はどうするのか。統合ありきの机上の空論ばかり。
- ・事実はこのまま。どう地元の方の意向を受け入れていくのか。
- ・説明では、今後の具体的な方向が今一つ分かりにくかった。
- ・資料が小さく、読みにくかった。パワーポイントをもっと活用して説明してほしい。
- ・地域や教育を守るのだという気持ち・覇気が全く感じられない。パブリックコメントに寄せられた市民の声に答えているのかについて、弱い面がある。机上の論理にとらわれ、また、国の方を気にされるので、地域住民、保護者、教員の願いや声が入り込んでいないものになっている。
- ・地域住民のニーズに寄り添っていない。行政努力の考え方がまったく伝わってこない。
- ・学校のあり方は、規模などの問題だけでなく、教員の問題、その内容の問題、子どもが主人公になっているかなど多くの課題がある。その中で考えたかった。

4 配布資料はどうでしたか。



- ・再編ありきの目線で作っているように感じる。
- ・とても分かりやすく、数値化されており、見やすかった。
- ・これまでに出了質問事項、回答例を付けてほしい。
- ・市の主張する(したい)意見のみで、どこまで互いに歩み寄れているのか、どこが問題のポイントなのか、細かいところまでかかれていない。パブリックコメントはどうなっているのか、細かくご回答いただかないと話し合えない。資料として不十分。
- ・もっと具体的な計数、論理的数値、根拠が知りたい。
- ・まったく参考にならない。
- ・事実はこう。どう地元の方の方向性を聞き、良い方向に向かうようにするか考えてほしい。
- ・机上の空論にとらわれ、国の方を気にされるので、地域住民、保護者、教員の願いや声を入っているか疑問である。望ましい学校規模は教育効果とは関係があるものではない。(大学の先生も言っている。)また質問にあったように人口減少の根拠に問題があり、しっかりと調査してください。
- ・推計の根拠が漠然として分からない。
- ・補足資料をなぜ配布しなかったのか。
- ・協議会の進め方について、学校再編のみを進めると読める。統合及び小規模校については議論が必要。
- ・行政として、経費節減のための施策の資料と思われるので、教育委員会名ではなく、市役所名とすべき。
- ・きれいごとで終始しているように見える。
- ・あくまでも子どもたちに対してより良い教育環境を整備していくために行うを信じる。11ページの7についても、ともに考えていければと思う。
- ・考え方は理解できた。
- ・パブコメ等、市民からの声の記載や、市民の意見の反映が少ない。10ページの6 魅力的な学校づくりの中に、小規模を活かした教育の記載がない。二小存続の文言のウエイトが少なく、小中一貫が多く、「これから議論していくこと」とは言え、偏った資料だという印象。教育委員の意見で始めより良いと思うが、存続・再編が50対50の印象はない。「地域協議会」以降に丸投げの感が強い。「市」としての考え方なので、逃げないでほしい。
- ・説明を聞いて見ると、頭に入ってきた。
- ・データだけ表示しても統廃合の対象だと決定される学校はそれだけでは分からなかった。
- ・統廃合ありきの資料になっている。どうして小規模だったらいけないのかまったく分からない。いきなり数字を示されても、こちらには本当の資料、数字が分からない。
- ・望ましい規模の説明なのに、各幼稚園の規模(定員と今年度の入園児数)等の資料は示されていないため、市の説明も理解しづらかった。保育・教育については、量の問題と質の問題が共に保障されなければいけないと思う。市民、保護者のニーズとしても大きいし、何より子どもたちにとっては大きな問題です。それなのに、質の問題が、取り上げられていなかったことが残念です。もっと、保育・教育の質に目を向けてほしいし、その点の記述がなかった。

5 説明会の全体的な感想をお書きください。

意見・質問内容等

回答等

奈良県下や大阪府下なども、学童やこども園で民営化、NPO法人化がなされている。けれども、そのことにより課題は解消されるのかもしれませんが、人員整理や雇い止めの問題が生じているということも聞いたことがある。その辺を明確に検討する必要があると考える。

発達障害を持つ子どもがいます。来年から幼稚園に入園したく、色んな園を回りましたが、受け入れを断られました。児童数が減っているという割に受け入れられない子はどうすればいいのか。看護師さんのいる保育園を進められ、それでも絶対入れないということにはならない。そのような子に対する説明をいただきたい。加配が必要な子どもは担任・副担任だけでは、見ることでできなくて、加配をつけようと思う。どんどん人数を増やすということは、もともと子どもをこをよよく見てもう見えないうんじやないかという不安しかない。

いつどうなるのかを知りたい。これから地域と話し合っていて決めていくということだが、なばな幼稚園が無くなるということだけで、入園希望者が減るのではないかと心配である。

なばな幼稚園は自然もあり、保育環境・学びにとっても良いと思う。子どもたちのびのびと小規模に満足していると思う。来年幼稚園に入園を予定しているが、再編が在園中に行われたらどうしようという不安しかない。初めての集団生活が始まり、1年後幼稚園が変わったら、子どもたちにも負担になり、やっとならないうんじやないか。通園がまた変わるとはどうすればいいのか。市には、もともと子どもたちのことを考えていただきたい。子育て支援に力を入れていっているというのであれば、もう少し子どものことを考えてもらいたい。待機児童がいるから保育園が必要なのは分かるが、それであれば今ある幼稚園にこども園は考えられないのか。保護者や住民の意見を必ず聞いていただきたい。新型コロナウイルスのこともあり、説明会等に参加することは難しいと考えられるので、アンケートの実施を求める。

なばな幼稚園の地域の方から、「廃園にしないで」とのメッセージがたくさん聞かれたことに、改めて地域に愛されている園だなと感じた。ここまで地域の方に愛されている市立幼稚園を一度統廃合する利点が本当にあるのかと思った。なばな幼稚園の立地のままで、子どもが通園できる環境を望む。各分幼稚園の場所だと、子どもも徒歩通園させて体力をつけさせることが不可能だと思う。幼小連携も不可能になってしまう。

基本的な考え方におさまして、再編後のこども園の民営化について、検討することとしており決定したものではありません。幼稚園をこども園とした場合、複数担任制の導入や0才～2才の受け入れにより、必要となる職員数は減少しないと見込んでいます。

加配職員については、園児数の多い、少ないに関わらず、園児にとってより良い環境となるよう加配が必要な園児のクラスに配置しています。ご質問者のお子さまの入園におかれましては、一緒に考えてまいりたいと考えておりますので、ごも課までご連絡をお願いいたします。

現時点では再編の時期は未定です。再編について保護者や地域住民との合意形成が図られた時点で、対象となる幼稚園に在籍している園児については、在籍する幼稚園で卒園できるような対応が必要とさせていただきます(「基本的な考え方」6ページ)。また、再編の時期に入園する未就園児の保護者に対しても、周知を図る必要があると考えています。

在園児や今後入園予定の未就園児の保護者へのご意見を聞く場が必要であると考えています。また、再編が決定した際には、周知と説明が必要と考えています。市教育委員会の考え方をお示しし、園児にとってより良い保育環境を提供することを最要事項と位置づけ、再編について保護者、地域と共に慎重に協議を重ねていきたいと考えています。現在の幼稚園でのこども園化について、あり方検討委員会でも評価された適正配置の観点では難しいと示されておりますが、今後、「(仮称)地域協議会」でも協議されることと考えています。このことから、保護者や地域の方のご意見を聞くための「意見交換会」や「(仮称)地域協議会」を設けたいと考えています。アンケートの実施についても、「(仮称)地域協議会」の中で協議いただくことと考えています。

市立幼稚園は地域の方とのつながりを大切に、地域の方々のご協力により、より豊かな園運営を行うことができている。再編は、今後の園児数の推移や保育ニーズを考慮し必要と考慮して行いますが、再編の検討を進める際には、園が地域とともに子育てをする場であることを配慮しつつ、そのつながりが継続されるよう努める必要があると考えています。徒歩通園による体力向上という面では、お住まいの場所によっては難しい場合も生じることが思いますが、現在も徒歩通園が困難なご家庭では通園バスをご利用いただいています。再編による園児の通園の負担については、通園バスの運行区域の拡大やこども園化に際しては送迎のための駐車スペースの確保など軽減を図る必要があると考えています。また、幼小連携については、現在、小学校区内の就学前施設に限定することなく実施している保幼小接続事業を継続しつつ、更なる充実を図る必要があると考えています。

・園児数が少ない園を再編し、こども園化することにより園児、先生を充実させる」ことにかかると算を「今ある園を改修し、給食など、こども園化した生駒幼稚園などの利点をどの園も平等に受けられるようにし、隣の地区へ越境して通う園を呼び戻す」ことに予算を使えないのか。
 ・こども園のニーズが増えていることは理解できるが、近くの公立幼稚園を再編して、こども園にするのではなく、すでに近隣のソフィアこども園となばたこども園を合併し、公・民を超えた活用はできないものか。

市在住の対象世代のうち、市立幼稚園・保育園に通園している子どもの割合はどの程度なのか。南幼稚園がこども園化するとした際に、私立幼稚園を選択した子どもが多かったのではないか。(こども園は応能負担のため)保育園のニーズが高まっている＝保育園に通いたいではない。手ごろな価格で延長保育のサービスがあれば幼稚園を選択する家庭も増えると思う。

スムーズな小学校入学へつながるよう校区をバラバラにしないでもらいたい。東小に行く地域の中で保育をしてもらいたい。隣の校区と合同になれば、通園が遠距離になる。乳幼児を連れて、園児と手をつないで歩ける距離で通園したい。

・色々聞きたいことがあったが、大勢の中で細かいところを質問できないように感じた。
 ・保幼小の連携を考えると、小区に幼稚園があることは重要なのではないかと思う。なばた幼から徒歩2kmに言分幼稚園があるとなっていて、園区の端からの距離も考えてもらいたい。保育ニーズの高まりは分かるが、色んな考えの人が子育てできる環境が子育てしやすいまちなのではないか。就労関係なく小区内のこども園に通えるのが理想ではないか。私立に流れている幼稚園ニーズを公立に向かう手立てを講じることができないのか。

民間任せの姿勢の疑問である。市は公の責任をどのように認識しているのか。特に未来を担う子どもたちの保育、教育を保障する責任は国と自治体が果たすべきである。
 ①様々な家庭背景を持って、様々な育ちをする一人一人の子どもたちへの発達を保障すること。
 ②園児だけでなく、その背景にある家庭支援も大切な役割である。
 ③入園していない地域に住む親子に対する地域子育て支援も求められている。これだけの役割を果たすためには、高い専門性や長年の積み重ねが保育士、教師に求められている。地域や自治体の保育・教育の質を高め、水準を良くしていく責任を果たせるのか”公”である。民間任せのような方向は止めていただきたい。公立幼稚園を今以上に減らしてはいけないと思う。

・市立幼稚園の園児数の減少は、少子化や就労家庭の増加という社会環境の変化が大きく影響していることから、あり方検討委員会の答申で示されているように今後も続くと考えられています。このことから、現在の幼稚園のこども園化については、あり方検討委員会で評価された適正配置の観点では難しいと示されておりますが、今後、「(仮称)地域協議会」でも協議されることと考えています。
 ・ソフィアこども園となばた幼稚園を統合することについては、給食室や送迎用駐車場の整備など課題があると考えています。運営に向けては、今後十分な協議、検討が必要と考えています。

対象世代の正確な数字の把握は難しいですが、市立幼稚園については全体の3割弱、保育所については5割弱が通園しているものと考えています。
 南こども園ができる前から、近隣市町の私立幼稚園を選択される方が一定数おられますが把握しておりませんが、これまで果たしてきた市立幼稚園の役割を果たしつつ、預かり保育の拡充や保幼小接続事業の取組を進めているところです。

統合やこども園化を行っても、地域の子どもも通園することから、地域との連携は必要であり、地域のご協力をいただく努力や取組は引き続き必要と考えています。
 通園については、ご自宅の位置によっては徒歩による通園は困難になる場合も考えられますが、通園バスの運行区域の拡大やこども園化に際しては送迎のための駐車スペースの確保など軽減を図る対応を考えていくことになります。

・市民説明会では時間の制約もあり、また質問し辛い雰囲気があったかもしれません。今後は、「(仮称)地域協議会」を設置し、保護者や地域の皆様と慎重に協議を重ねながら検討していきます。なお、「(仮称)地域協議会」は、公開で開催いたします。

・保幼小連携については、連携する小学校が近隣にあることが利点のひとつではありますが、現在、小学校区内の就学前施設に限定することなく実施している保幼小接続事業を継続しつつ、更なる充実を図る必要があると考えています。なばた幼稚園と言分幼稚園の距離ですが、ご自宅の位置によっては徒歩による通園は困難になる場合も考えられますが、通園バスの運行区域の拡大やこども園化に際しては送迎のための駐車スペースの確保など軽減を図る対応を考えていくことになります。多様な子育てニーズに対応できるこども園ですが、それぞれの幼稚園のこども園化については、あり方検討委員会で評価された適正配置の観点から難しいと考えます。しかしながら、今後、「(仮称)地域協議会」でも協議されることと考えています。
 また、私立に流れている幼稚園ニーズを公立に向かう手立てについては、これまで果たしてきた市立幼稚園の役割を果たしつつ、預かり保育の拡充や保幼小接続事業の取組を進めていますが、公立、私立それぞれの役割や特徴を示し、共に地域の幼児教育を担う者として、連携を図ってまいりたいと考えております。

今後、少子高齢化が更に進むこととなれば、持続可能な行政運営を行うには公の領域を精査し、あらゆる施策について、民間の力を活用する方向性も視野に入れておく必要はあると考えています。
 こども園化に向けた取組についても同様でありますが、その際には、子ども・子育て支援制度に則った運営を行うことは当然であり、したがって、市の関わりは必要となります。
 現在も公私が連携を密にし園長会や研修会を実施し、情報共有や質の向上に努めています。また、こども園化することにより地域子育て支援事業への取組が必須となり、地域にも貢献できると考えています。

大規模の保育園、こども園、幼稚園の課題はないのか調査してほしい。
大規模園での年間行事(運動会、入園式、卒園式等)や避難訓練等はどのように取り組みられているのか。子どもたち、保護者、職員に対し、大きな負担を強いていないのか。ぜひ、聞き取りや調査研究を行ってほしい。日常生活の中で課題はないのか、安全性に問題や課題はないのか調査してほしい。

大規模の定義は難しいですが、施設の定員を上回っている幼稚園はありません。比較的園児数が多い園では、職員数も多くなるため、担任以外の職員も避難訓練や行事について役割分担を行い、進めることができます。今年度、コロナ禍において運動会等の行事については、入れ替え制を取り入れ、密にならない工夫を行ってききました。また、新しい生活様式を取り入れる中でも、今後活かせることが多くあると現場職員からは聞いております。園児の安心・安全は今後も最重要課題として取り組んでまいります。

・なばた幼で10,648千円、壱分幼で6,975千円となっているがこども園化した場合のコスト比較を知りたい。
・あり方検討委員会に問題があったのではないか。本日の説明会は統合反対者の参加が大多数であるが、統合賛成者はゼロなのか。

・南こども園の平成30年度実績となりますが、約15,800千円です。
これは、0から2歳児までを受け入れていること、また、夏休みなどの長期休業がないことなどから、幼稚園と比較すると、光熱水費や消耗品費などの経費が小さくなります。
・統合賛成者について、現在のところ把握していません。

・兄弟で幼稚園が分かれるとなると保護者も大変である。俵口幼、俵口小であれば、近々のため便利であるが、下が生駒台幼となると大変である。
・生駒台幼は運動場が小さいため、運動会等は生駒台小の運動場を使っているのが現実であるのに、俵口幼と統合しても良いのか。

・再編後の参観などの行事については、小学校と幼稚園における調整が必要になると考えます。
・今後の園児数の推計などにより、施設としては定員以内での対応が可能と考えられています。

現在、子どもが小学2年生ですが、昨年度は生駒市ならではの1クラス少人数学級で28～29人程度ができてきました。先生からは、手厚くフォローをいただきたき、大切な小学校入学一年間を過ごすことができました。私たち親も安心できました。今回の説明会は、学校の数や形態についてでしたが、そこには、先生方の質の良さも加わって、初めて子どもにとって良い環境になったと思います。ぜひ、先生方の質や数についても、生駒市の子どもにとって良い状態にしていきたいです。生駒市で子育てをすることができ、とても幸せである。他市の話を聞いても、とても恵まれていると思う。

より良い教育環境を実現していくためには、ご意見のとおり教職員の質・数も重要であると考えています。質については、県教委主催の研修会だけでなく、市教委主催の研修会も実施し、教職員の能力向上に努めています。数については、県教委については県教委において配置基準を定め、それに基づき配置されていますが、市独自で小学1年生の30人程度学級を実施しています。さらに、教員の負担軽減のために一部の学校においてスクール・サポーター・スタッフの配置などに取り組んでいきます。
今後もし引き続き、子どもたちの教育環境の充実に努めていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。

※今回の説明会ですが、広報紙で偶然知りまりました。学校の配布物で案内すると、実際にお子さんのおられる保護者の方も興味を持たれると思う。

今回の説明会につきましても、基本的な考え方で再編の対象となりました保護者の皆さまについては、市長と教育長のメッセージを配布させていただきました。市民説明会についても周知させていただいております。今後とも広く市民の皆様にお知らせできるように努めていきたいと考えています。

小中学校の統合について、地域にきちんと説明し、丁寧に対応していただいているように思えた。どうにか何としてでも、南第二小学校を存続してもらいたい。
市立小中学校児童生徒数及び学級数推計は世代交代や小平尾バイパスの完成等を加味されたものではないのか。前向きな推計も示してほしい。これからの社会を担う子どもたちにはお金のかけのべき。財政対策はもつと他の部分でできないか。
世界的に見ても、日本は学級数が多く、昨今の時代の変化、これからの時代の変化にも対応可能な学校活動は、少人数学級ならはたはと思う。
生駒南第二小学校の在校生の子どもたちを見つかりたい。まっすぐでキラキラしている。統合を考えるのは、時期尚早だと感じている。子どもがいまいきいきと成長している。学校生活をいきいきと過ごしている。この真実が全てだと思う。

再編の対象となりました学校については、今後、保護者・地域住民等で構成される地域協議会を設置し、協議会で出された方向性を基に教育委員会で決定していきたいと考えています。
児童生徒数及び学級数推計については、令和7年度までについては住民基本台帳の登録者数から算出させていただいており、令和7年度以降につきましては令和7年度の児童生徒数に対して国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を基に年齢5歳区分での人口の減少率を乗じて推計してまいります。なお、推計に当たっては、小平尾バイパス等の現時点での不確定事項は考慮していません。財政対策については、第3次生駒市行政改革大綱を定め、今後5年間で10億円以上の経常経費の削減に向けて、取組を進めているところです。

私は生駒南第二小学校の出身である。当時、生駒南第二小学校の多くの児童が通っていた。現在、結婚して、子どもが小学生になり、運動会や参観会や学校に行ったとき、生徒が少なく、驚いた。子どもに話を聞いていると、私が通っていた時は、第二小に通っていた地域の子どもたちも高分小や南小へ通われていたと聞いた。高分小は開発の関係もあり、児童が増えて、一杯だと聞いたことがある。一方の生徒が減りすぎて、一方が生徒が溢れるという状況は少しおかしいと思う。資料の中には、通学区の見直しに関することも検討するとあるので、よく検討いただきたい。校区の再編成が最優先だと思う。

”子育てがしやすい”とリーフレットにもあり、実際に住んでいる方にも住みやすいと聞いたことから、安心して転居を決めたが、統廃合のこともあつた。あり方検討委員会で検討を重ねたということだが、委員からこのままではいかげなものかといった意見が多く出ていた。にもかかわらず、このように進められるのは残念に思う。住民や保護者の思いを含めて今後進めていただきたい。市を盛り上げていくために市民も何ができるのか考えていきたい。

学校再編について、今後対象となった校区において地域協議会を設置し、協議していくこととなりますが、その協議の過程で通学区の見直しが必要と判断されることとなった場合には、改めて通学区の見直しに向けた検討を進めることになり、対象となる校区において新たに協議会を設置し協議していくことになると考えています。

再編の対象となりました学校については、今後、保護者・地域住民等で構成される地域協議会を設置し、協議会で出された方向性を基に教育委員会で決定していきたいと考えています。協議会を含む様々な機会に保護者・地域の皆さまのご意見を伺いながら、進めていくことを想定していますので、ご理解いただけますようお願いいたします。

・通学区の調査については、教育委員会におきまして通学区と想定される箇所について一度現地調査をさせていただきました。協議会設置以後も危険箇所等の調査を行い、協議会で資料として提示させていただきますと考えています。

・地域協議会では、事務局職員が構成メンバーの一員として参加する予定であるとともに、庶務を行う事務局として参加予定となっております。

・本市においては、令和3年度にはコミュニティ・スクールを全校で導入予定であり、「地域とともにある学校」として学校運営においてより一層地域の方々と関わりを強化していくことを推進していきます。コミュニティ・スクールにおいては、学校運営の方向性等について協議・決定する学校運営協議会と実際に学校の教育活動に関わっていただく地域学校協働本部(保護者・地域住民等)との連携が重要になります。学校再編等に関わる協議等を通じて、コミュニティ・スクールの発展につなげていきたいと考えています。

・意見交換会については、再編の対象となった協議会を設置する予定の校区の関係団体を対象に実施する予定です。協議会設置後に広く保護者・地域の皆さまにご意見を伺う機会が想定されるときも、市教育委員会事務局にお問い合わせていただければ、都度ご意見を伺いさせていただきます。

・通学区の見直しについては、当該校区に通学している児童生徒の保護者・地域住民など多くの方々に関わる問題であり、検討に当たっては非常に時間を要することとなります。もちろん関係する皆さまのご意見を伺いながら進めていく必要があると考えており、もし通学区の見直しも併せて検討していくことが必要と判断される際には改めて関係する校区の保護者・地域住民の皆さまと十分に協議しながら進めていきたいと考えています。

・留意すべきこととして通学の安全を挙げているが、通学区の調査は地域協議会前にとり市議会などで答えていたが、具体的にどのような調査をいつするのか。

・地域協議会に事務局はどのような立場で入るのか。

・市議会で「学校協働活動本部」につなげていきたいと答えていたが、どのような活動を具体的に考えているのか。

・意見交換会は団体に限らず、一市民として聞いてもらえるのか。いつ、どこで、誰が参加できるのか、具体的に教えてください。

・校区の見直しには時間がかかる、多くの人と話をしないといけないとはどういうことか。少数派の意見も聞いていただきたい。

意見・質問内容等	回答等
<p>公共施設マネジメント推進計画での児童数と基本的な考え方の児童数の推計が異なるが、今後地域協議会で話し合う際にどちらの数値をもとにするのか。 質疑では協議会で決めるような回答であったかと思うが、市としてはっきりと決めるべきである。推計方法についても、市HPに記載し、公表いただきたい。</p>	<p>公共施設マネジメントシステム推進計画と基本的な考え方の児童生徒数推計が異なることについては、公共施設マネジメント推進計画では市の人口ビジョンから推計したものであり、基本的な考え方については市教育委員会独自で推計したものとなっています。 両者の推計とも将来的な児童生徒数の傾向を示すもので、協議会においては、再編の対象となつた生駒南第二小学校について現状として基本的な考え方で示している学校規模の基準によつた場合、小規模校に該当しており、今後その傾向が続くと見込まれることから、このような傾向を踏まえて、今後の方向性について協議を進めていきたいと考えています。 推計方法については、上記の質問で回答したとおりです。</p>
<p>・突然統廃合の話を受け、地域住民や保護者、子どもたち、先生方は傷ついている。そのような人たちの不安や怒り等に対して心のケアが必要であることから、学校に臨床心理士などを配置いただきたい。それが難しいければ、市保健師でカバーいただきたい。 ・「小規模校を存続させる場合の具体的な方策」を実現させていきたいと考えているが、先生方に負担を強いることはできないことから、実現に向けて市からの補助や人員補充をお願いしたい。</p>	<p>・市民説明会でご説明させていただきましたとおり、生駒南小学校と生駒南第二小学校の学校再編については、市としての決定事項ではなく、今後、地域協議会を設置し、保護者・地域住民の皆さまと協議をしながら、方向性を決めていきたいと考えています。 ・小規模校を存続させる場合の具体的な方策については、学校と行政だけでなく、保護者・地域住民の皆さまのお力をお借りして進めていくものと考えており、行政が果たすべき役割についてはしっかりと取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p>幼稚園と小中学校を話題にするには時間が足りないと感じた。もう少し時間をかけて意見を聴いていただきたい。</p>	<p>地域協議会の設置以降、一定の段階で保護者・地域の皆さまにご説明する機会、ご意見を伺う機会はこちらのすること、随時教育委員会事務局にてご意見等は承ります。</p>
<p>説明会に託児があることが十分に周知されていなかった。知らずに参加をあきらめた人もいるのではないかと。</p>	<p>広報紙での説明会のお知らせにおいては、託児を実施させていただく旨を掲載させていただいておりましたが、十分に周知が足りずに申し訳ございませんでした。今後も様々な方にご参加いただけるように取り組んでまいりますので、ご理解いただけますようお願いいたします。</p>
<p>・質疑で「未就学児の保護者についてどう考えておられるのか」との質問に対して、実際に対応いただけるのか分からなかった。基本的な考え方に記載いただければいい。 ・意見交換会について、新型コロナウイルスの感染拡大もあることから、状況を見極めて対応いただきたい。しかし、意見交換会を開催せずに進めるようなことはしないいただきたい。安全に丁寧に進めていただきたい。</p>	<p>・基本的な考え方に反映することは考えていませんが、協議会におきまして、未就学児の保護者の方に対してご意見等を伺うことが想定されます。 ・ご意見のとおり新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、意見交換会・地域協議会の開催を進めていきたいと考えておりますので、ご理解いただけますようお願いいたします。また、意見交換会・地域協議会につきましても、基本的な考え方で示しているとおりに開催していくべきものと考えています。</p>
<p>保護者よりも地域の方の参加が多かったのに驚いた。地域も大切だが、当事者(保護者)に関心を持ってもらうことが大切だと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、学校再編に関してだけでなく、市の教育全体に関し地域の方だけでなく、保護者の皆さまにも関心をいただけるように周知等を行っていきたくと考えています。</p>
<p>南地区の子どもの数が少ないことから、南地区で小中一貫校ができるのかと資料を見て思った。</p>	<p>小中一貫教育については、学校再編等の有無に関わらず、将来的に全市的に進めていくことを示させていただいており、小中一貫教育を進めていく中で、学校再編を実施するに当たっては、小中一貫校の設置についても手法の一つとして検討していくことが考えられるということを示しています。</p>

・国が示す望ましい学校配置とは、山間部であっても4km以内には必要ということである。その基準を検討した結果、生駒市における望ましい学校配置の基準となつたのはなぜか。

・適切な交通手段として、色んな人が乗る電車が挙げられることに疑問を感じる。

・児童の通学負担も重要だが、保護者の負担について何も書かれていないのはなぜか。保護者の負担にならないように配慮することも示していただきたい。

・環境整備とは、具体的にどこまでの整備を想定しているのか。

・国が示す学校配置の基準をもとに、市としての望ましい学校配置を審議した結果、基本的な考え方でお示しているとおおり、国が示す基準を本市における望ましい学校配置の基準としたものです。なお、国の学校配置の基準については、山間部等の条件下における基準として定められているものではなく、公立小・中学校の施設費の国庫負担対象となる学校統合の条件として定められていることから、通学条件を通学距離によって捉えることが一般的となっております。

・学校再編が行われる場合には、基本的な考え方にも示していますとおおり、通学の安全、負担に留意が必要としており、様々な方法によって過剰な負担にならないように対応策を講じていくことが必要であると考えています。保護者の負担についても、通学も含め、学校再編により過剰な負担がかからないよう積極的な情報発信や丁寧な相談体制等、必要な支援を講じていく必要があると考えています。

・環境整備については、通学方法によって異なってくるものと考えていますが、通学方法が確定されるに当たり行政として必要な整備を行っていく必要があると考えています。

あり方検討委員会では統廃合ありきで進めるというように感じる説明会であった。市としては、学校規模に対してのみの方で、小規模校はダメだと言っているようにしか思えなかつた。存続に向けてどのようなようにしていけばいいのかということ全員で考えていけると良いと思う。

基本的な考え方でお示しているとおおり、小規模校にもメリット・デメリット両方が存在すると考えています。このメリット・デメリットを踏まえて、学校規模の基準を定めた上で、学校再編の対象となつた学校については、今後の学校のあり方について保護者・地域の皆さまとともに協議を重ねながら、方向性を決めていきたいと考えています。

コロナ禍の中、今、説明会をしなくてはいけなかつたのか。急ぎ進めるいうことに不満を感じた。地域協議会で進めていくと言われているが、今後ますますコロナ禍でどうなるか分からないことから、コロナがおさまるまで進めないでほしい。国が進めるからと小規模校をなくす、小中一貫校化、幼保一体のことも園化などやることなく、市独自で住民、子どもたちに寄り添い、子育てしやすい生駒市を目指してほしい。

新型コロナウイルス感染状況を見極めつつ、今回は最大限の予防措置を講じながら説明会を開催させていただけました。

市教育委員会として、急ぎ進めるということは決まらず、今後丁寧な協議を地域の方々と協議を重ねながら、進めていきたいと考えています。

地域協議会での協議の結果、どのような方向性が示されたとしても、市としてその方向性の実現に向け、子育てしやすいまちを目指し、取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解いただけますようお願いいたします。

・財政問題が基準で統廃合を進めているように思う。財政の健全化を図る努力が必要であり、少子化対策に力を入れ、若い世代を呼び込むためにも、学校の充実をはかることが必要である。萩の台の空き家対策のためにも学校を残してほしい。

・小規模の良さを認められていると思う。南第二小をしっかりと残していく協議会にしてほしい。

・説明会を当該小学校の保護者や住民に対してやってほしい。共につくりあげていくというのであれば、しっかりと意見を聞いてほしい。

・小学1年生にとつて、1時間の通学時間は考えられない。夏の暑さや通学路は危険な箇所が多い。実際に検討されたのか甚だ疑問である。スクールバスや電車通学というが、その負担と学童保育に通う子どもにとつてはどうか。

・幼稚園についても、小学校についても、住民への説明の大切さを感じられたと思う。もっと住民説明会を開催してほしい。

・学校再編については、子どもたちの教育環境の充実が目的であります。教育環境の充実を果すためには、学校施設の適切な維持管理や設備等の充実が必要であり、財政的な視点も必要となります。市としては、健全な財政運営を堅持しつつ、教育環境の充実を努めていきたいと考えています。また、市の教育施策等を充実させることにより、少子化対策として、子育て世代の流入促進に取り組んでいきたいと考えています。

・基本的な考え方も示されています。小規模校にはメリット・デメリットが存在します。このようにメリット・デメリットも踏まえつつ、再編の対象となった生駒南第二小学校の方向性について、協議会において検討していきたいと考えています。

・今回の説明会については、市全体の基本的な考え方についての説明会という位置付けで開催させていただいたため、地域での説明会の開催予定はありません。今後設置予定の地域協議会において、いずれかの段階で説明会の開催が必要と決定された際には、保護者・地域住民の皆さまに説明会が開催される予定です。ご理解をお願いします。

・基本的な考え方においても示しているとおり、学校再編に際しては、通学の安全確保に留意が必要としていきます。児童生徒の通学に過度の負担がかからない通学方法の検討など、協議会においてそのようなことも含めて検討していきたいと考えています。

・上記の回答と同様、今後設置予定の地域協議会において、いずれかの段階で説明会の開催が必要と決定された際には、保護者・地域住民の皆さまに説明会が開催される予定です。

小規模校よりも大規模校を適正な規模にする必要がある。子どもたちにとつて良い環境にある小規模校をなくすことしか頭がないように思う。

子どもたちのためというより、行政の都合しか感じられない。原点である子ども第一というところから考え直すべき。少子化だったら、せつかくそのその機会を活かして、少人数学級を進めるべきである。

小中一貫校についてもデメリットしかない。市民を置き去りに進めていいわけではない。

現在大規模校として分類される学校について、大規模校が長期的に続く場合には、望ましい規模に回けた取組を講じていく必要があると考えますが、ここ数年でピークを過ぎ、望ましい規模になることが見込まれています。

小規模校と少人数学級は異なるものであり、学校再編については学校規模、基本的な考え方では学級数を基準として示しているものとなっております。少人数学級については、市独自で小学校1年生30人程度、県独自で2年生35人学級を実施しているところであり、他学年への拡大については、国の動向も注視していく必要があると考えています。

小中一貫校教育については、中1ギャップの解消や一部教科への乗り入れ授業等によって、児童生徒への一定の効果が見受けられることから、全的に進めたいと考えています。小中一貫校については、学校再編における一つの手法として検討することも考えられるとお示したものであり、学校再編・小中一貫校の設置には、保護者・地域の皆さまとの十分な協議が不可欠であるとと考えています。

教育施設は、園児・児童・生徒、保護者、先生を含めて、市の財産だと思ふ。統合や廃校、廃園の方向ではなく、どうすれば健全に存続できるかという方向に可能なかぎり探ってもらいたい。生駒市は子育てしやすいまちとして誇れる努力をしてほしい。

今後設置予定の地域協議会において、再編の対象となった学校の方向性について、保護者・地域住民の皆さまと協議を重ね、検討していきたいと考えています。

説明会の時間が少ない。市民の疑問に答え、意見を聴こうという姿勢であれば、全体説明会1回は少ない。今後、地域協議会任せでなく、市の責任で回数を増やしてほしい。質問したいこと、分らないことがまだたくさんある。

新型コロナウイルス感染予防のため、説明会の時間を十分に取ることができずに申し訳ありませんでした。基本的な考え方に関するご質問等がありましたら、市教育委員会事務局までお問い合わせください。

説明会については、今後設置予定の地域協議会において、いずれかの段階で説明会の開催が必要と決定された際には、保護者・地域住民の皆さまに説明会が開催される予定です。ご理解をお願いします。

意見・質問内容等	回答等
<p>コロナ禍のもと、少人数学級への模索が始まっている、幼稚園も小学校も、統廃合はその流れに逆行すると思う。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大を受けて、国において少人数学級の実施に向けた検討が行われています。小規模校と少人数学級は異なり、小規模校は基本的な考え方で学級数を基準としています。少人数学級は1クラス当たりの児童生徒数のことを指します。学校再編については、今後設置予定の地域協議会において、保護者・地域住民の皆さまと協議を重ね、方向性について検討していきたいと考えています。</p>
<p>質問される方の話を聞いて、今回の説明会に参加した意義があった。</p>	<p>ご意見として承ります。ご参加いただき、ありがとうございました。</p>
<p>幼小中の基本的なークラスの人数がまだまだ多く、国基準よりマシではおかし。低学年では25人程度が妥当であると考え。</p>	<p>市独自で小学校1年生30人程度学級、県で小学校2年生35人学級を実施していますが、国基準以上の少人数学級の実施に係る経費等は、全て市の負担となることから、他学年への拡大は慎重に検討する必要があります。</p> <p>現在、国において少人数学級の実現に向けた検討が進められていますが、その動向も注視していきたいと考えています。</p>
<p>少子化が進んでいるのは全国の課題であり、園児数が減るのも分かるが、そもそも生駒市の人口推移はどうなっているのか。子育てしやすいまちとして選ばれていないのか。幼稚園のあり方を見直す前に、生駒市のまちづくりを見直す必要があるが、あすか野小、上中地域では児童生徒数がピークを迎えて、2ページの下段に記述があるが、そもそもそのような事態を迎えることがまちづくりとして失敗しているのではないのか。宅地開発やマンション建設を許可するのでも市の責任ではないのか。</p> <p>南地区に開発する要素はないのか。空き家問題等、取り進むべき問題はまだまだあり、生駒市として人口増加、子育て世代の増加、今後50年を見据えると再編も重要なことであるが、生駒市としてさらなる成長を成し遂げるために根本的な改革が必要であると考え。</p> <p>新しい生活様式を考えようと都会に住むメリットはほとんどなくなっていく。大阪等からの人口流入もまたまた考えられる。</p>	<p>生駒市全体の人口は、全国的な少子高齢化の傾向を受け、今後減少していくことが見込まれています。市としては、このような人口推計を踏まえ、「子どもを産み、育てやすい環境の整備により出生率の増加を図る」、「優れた知識や技能を有する女性か能力を発揮できる環境を整備し、多様な働き方の促進により、子育て層の女性をはじめ働き盛り世代の市内就労の維持拡大を図る」、「働き世代にとって魅力的な環境を発信し、市外からの流入を促進するとともに、市内においても働き世代を中心にシビックプライドを醸成し、定住促進を図る」という方向性で取り組んでいます。</p> <p>空き家対策など様々な課題に対して、市として築屋しつつあることができれば、ご理解も含まれます。保護者・地域住民の皆さまと共に考えていきたいと考えていますので、ご理解をお願いします。</p>
<p>統合を前提にした施策を進めているように感じるため、不安でしかなく、地域に寄り添う形での施策でなければ同意は得られないと思う。</p> <p>二小について、小規模でどのようにうまくマネジメントしていかけるかについて、議論を進める方が、現実的だと考えます。</p>	<p>再編の対象となりました学校については、今後、保護者・地域住民等で構成される地域協議会を設置し、協議会で出された方向性を基に教育委員会で決定していきたいと考えています。</p>
<p>説明に対する会場の意見が感情的な面を多分に含まれていることから、今回の説明会が市民に対して得ていないものであったと思つた。</p> <p>少なくとも一年前の問題提示から市民は正確な情報が得られず、不安にさせていたことに理解を示した説明会であれば、もう少し冷静に話し合いができたのではないかと。</p> <p>一度不信感を抱かしてしまつてからでは、互いの理解は得られない。今回の件から、市の対応はいかにお役所仕事であつたのかを学んでいただきたい。財政の問題があるなら、人件費の削減が第1手段である。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大により、答申に関する説明会を開催できませんでした。今後、今後設置予定の地域協議会において、保護者・地域住民の皆さまと十分な協議を重ね、方向性について検討していきたいと考えておりますので、貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>なお、市政の状況につきまして、社会保障関連経費が増加していく中、行政改革を進め、健全な財政運営を堅持していきたいと考えております。</p>

意見・質問内容等	回答等
<p>説明会の位置づけとしてあくまでもここがスタートであり、今後意見交換会や地域協議会で議論を進めていくというのはいくつかあるが、参加者の意見でもあったようにパブリックコメントへの言及が一切なかったのはとても残念だった。そもそもこの再編が出た根拠となる生徒数の減少率について、その出所の説明がまったく納得できない。いかにも事務的で、とおり一辺倒の印象であった。今後、地域住民と十分な意見交換の場を設けていただけたことを期待する。</p>	<p>パブリックコメントについては、生駒市学校教育のあり方検討委員会でいただいたものであり、市教育委員会としても重く受け止め、今後の意見交換会、地域協議会でいただいたご意見を活かしていきたいと考えています。 児童生徒数・学級数推計については、上記の回答のとおりとなります。 今後は、地域協議会において、保護者・地域住民の皆さまと十分な協議を重ね、方向性について検討していきたいと考えております。</p>
<p>経常経費の削減とのことだが、学校給食センターを7年間使用するために5億円支出するのは費用対効果の面から見て疑問である。北センターで対応できる8千食まで子どもの数が減るまで、現施設を使用する方が有効利用できるのではないかと。全国的にも南二小規模の学校はどれだけあるのか。どれだけ統廃合されているのか。地域住民の声を聴いても、再編の立場なのか、存続させる方法を考える立場なのか教えていただきたい。</p>	<p>現行の学校給食センターの老朽化と2時間喫食の実現のため、北地区と南地区の2か所に学校給食センターを設置することを当初計画していましたが、社会情勢の変化や市財政状況を踏まえた結果、当面は現行の学校給食センターと生駒北学校給食センターを維持し、生駒北学校給食センターで対応できる児童生徒数になった段階で生駒北学校給食センターに集約することに計画を変更しました。しかし、現行の学校給食センターについては、老朽化が著しく、子どもたちの給食にも影響が出るおそれがあることから、改修を行うものです。 全国的に見て、12学級に満たない小学校が約半数を占める状況になっていきます(平成30年度時点)。 現時点では、市教育委員会としては、学校再編を決定しているものではなく、地域協議会を設置し、保護者・地域住民の皆さまと協議を重ね、方向性について検討していきたいと考えています。</p>
<p>教育委員会からは口だけの”子どものため”だけを強く感じた。本当に”地域”子どもたちのことを考えたあり方”を考えたとは全く伝わってこなかった。統合ありきの方向性しか考えていない。市民の話を聴くのであれば、生駒は統合ゼロの選択もありとすべきである。あまりにも市民、子どもたちのことを考えてない説明にかかりました。</p>	<p>現時点では、市教育委員会としては、学校再編を決定しているものではなく、地域協議会を設置し、保護者・地域住民の皆さまと協議を重ね、方向性について検討していきたいと考えています。</p>
<p>学校は地域の宝であり、災害対策にも重要な役割を果たす。学校を核とした地域づくりについて、行政として考えていってほしい。</p>	<p>学校は災害時の避難所にも指定されており、地域コミュニティの核にもなっていることから、今後設置予定の地域協議会において、まちづくりの視点からも保護者・地域住民の皆さまと協議を重ね、方向性について検討していきたいと考えています。</p>
<p>本日の説明で、地域協議会で話し合いを進めていくことが分かった。大切なのは、結果ありきでなく、しっかりと地域のことを十分考慮したものにしていただきたいと思う。教育の中に財政議論を持ち込むことは危険である。</p>	<p>今後設置予定の地域協議会において、再編の対象となった学校の方向性について、保護者・地域住民の皆さまと協議を重ね、検討していきたいと考えています。 また、市教育委員会としても、人的・財政的資源が限られている状況下において、子どもたちのより良い教育環境の充実に努めていきたいと考えています。</p>
<p>学校の再編、小規模校を存続する場合の具体的な計画を示して、地域と協議することが必要であると思う。早く示して良い対応を関係者で協議すべきではないか。</p>	<p>具体的な方向性については、今後設置予定の地域協議会において、保護者・地域住民の皆さまと協議を重ね、検討していきたいと考えています。</p>
<p>説明会の受付で指定席と言われた。新型コロナウイルス感染予防として納得したが、受付でもそのような説明をいただきましたか。</p>	<p>説明会当日の案内で十分なお説明ができず、申し訳ありませんでした。 今後に活かしていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。</p>

意見・質問内容等	回答等
<p>・市民の不安や疑問に答えるのは全然時間が足りない。市民が納得するまで市の方針変更も含めて説明会を続ける必要がある。参加者から出された質問、疑問、要望、意見等に対して、その意味を十分くみ取り、市民が納得するまで、説明が必要である。市民説明会でのみの対応では、市民の疑問、不安等に答えられないとは到底思えない。</p> <p>・萩の台地域の住民にとっては、南二小の再編は死活問題である。萩の台地域を衰退させる南二小の再編という決定をされたいことを切に望む。</p> <p>・これからのウィズコロナに対応するためにも小規模校が必要になる。</p> <p>・意見交換会、地域協議会は十分市民、保護者に開かれた会にしていただきたい。</p>	<p>・今後、学校再編の対象となった学校の関係団体と意見交換会を開催するとともに、設置予定の地域協議会において、保護者・地域住民の皆さまと十分協議を重ね、方向性を検討していきたいと考えています。</p> <p>・学校は、地域コミュニティの核にもなっていることから、まちづくりの視点からも地域協議会において、協議していきたいと考えています。</p> <p>・意見交換会については非公開となりますが、地域協議会については、公開で開催する予定です。</p>
<p>・今回の小規模校とされた南二小について、廃校にするほどの問題はないと思う。当該校の保護者、児童、教員の声は問題あるとしているのか。聴取した具体例など、まとまったものがあれば示してもいい。</p> <p>・小中一貫教育が強調されているが、今回の提案は、南小と南中の一貫校化を提案しているのか。</p> <p>・施設の改修計画から、南第二小のように比較的新しい学校施設を閉鎖するのは合理的とは思えないのか説明いただきたい。</p> <p>・財政状況について、昨年度は黒字と聞いているが、今後年間2億円もの財源不足となるとなっているが、どう理解すれば良いのか。併せて二小の廃校でいくらか経費の節減になるのか。</p>	<p>・現時点では、具体的に当該校の関係者から意見を聴取したものはありませんが、生駒市学校教育のあり方検討委員会が実施したパブリックコメントでは多くのご意見をいただいています。</p> <p>・小中一貫教育については、全市的に取り組むとともに、学校再編の際には施設一体型の小中一貫校を設置することも手法の一つとして検討していくことを示しているものであり、特定の学校等を想定しているわけではありません。</p> <p>・令和元年度決算については、平成30年度決算に引き継ぎ赤字となっておりますが、社会保障関連経費が毎年漸増傾向であり、少子高齢化に伴い市税収入も大きな増収は見込めないことから、市では今後5年間で10億円以上の経常経費の削減を掲げています。なお、南第二小の維持管理経費については、人件費を除き、年間約1千万円となっておりますが、一定期間経過後に校舎の改修などの投資的経費が必要となります。</p>
<p>学校・幼稚園が無くなると大騒ぎですが、普段は全くの無関心でなければならぬが、自分たちの子どもで地域住民が活動してのにもかわらず、見向きもしない。これと同様のことがありました。質疑で発言された方は普段から関心を持っているのか。教育委員会・学校側も、普段からの努力・呼びかけが無かったと思う。今回の件も、お互いに意思疎通ができていないから、かなり困難を極めると感じた。今の日本では残念ながら当たり前になってしまうた、立場が変わると分断が起こる、まさにそれだと思ふ。</p> <p>今後行われる会議等でもそれがキーポイントになると感じている。</p>	<p>市教育委員会として、地域とともにある学校を目指し、令和3年度からコミュニティ・スクールを全校に導入予定であり、ご意見のとおり、今後は地域等に対しての積極的な情報発信、働きかけが重要であるとと考えています。</p>